

『小学校入学に向けて体験しよう』



義務教育開始前後にあたる5歳児から小学校1年生の2年間は“架け橋期”と呼ばれ、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期と言われます。

今回は、その架け橋期前半の小学校入学前に付けておきたい力について、心理学の視点からと実際の保育現場での事例を通してお話いたします。

また、4・5歳児のお子様には、小学校での生活に向けて効果的な遊び等を楽しみ体験していただきます。



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
高岡 昌子 先生



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
石原 由貴子 先生

開催予定

日時：令和4年8月27日(土) (10時30分～11時30分)

場所：奈良学園大学 3号館2階 幼小接続室

対象：4・5歳児のお子様及びその保護者の皆様

定員：18組 (定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

※ソーシャルディスタンス・換気・消毒の徹底等、感染防止対策を行います。
※教員だけでなく学生も参加します。

こちらから
申込みください。



第9回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

ニューズレター第6号 編集後記ご挨拶

キャンパス統合から3ヶ月が経ちました。学内では、保健医療学部と人間教育学部の学生の活気ある交流があり、3号館 commons 等でも自主学修や教え合う姿が早朝から夜遅くまで見られます。

また、学外でも学生の学びの様子が公開されることになりました。大阪府と関西6大学の共同研究「インターネット上の人権侵害解消のための取組」に、2021年度「人間教育実践力開発演習Ⅲ」受講の小学校教員をめざす本学の学生が取り組んできました。

この度、以下のように啓発動画公開の詳細が決定しました。

【期間】令和4年7月18日(月)～7月31日(日)

【場所】JR大阪駅 BIGデジタルサイネージ
<https://kansaikaku.ne.jp/tad/west-osaka-station-vision/>

【時間】6:00～24:00 (6分ごとに1回放映される予定)

ご覧頂く機会がございましたら、大変嬉しく思います。
いつも関係機関及び近隣の皆様の応援や支えに感謝致します。



奈良学園大学
社会・国際連携センター長
善野 八千子

第7回・第8回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催

4月16日(土)は、保健医療学部リハビリテーション学科の池田耕二教授が講師を務め「緩和ケア領域における理学療法の紹介」をテーマに、6月11日(土)は、保健医療学部看護学科の吉村雅世教授が講師を務め「老化と付き合う健康づくり」をテーマに公開講座を開催しました。

近年、地域には加齢や慢性疾患または大きな病気のために身体機能の回復が期待できない方々が多くなってきています。登美ヶ丘カレッジでは、緩和ケアの考え方を導入した緩和理学療法をご紹介させていただきました。



緩和理学療法は対象者と家族の双方の心理的、社会的負担を軽減しながら、よりよい生活を目指すものですが、あまり知られていない領域でもあります。そのため、受講者の方々にどのくらい興味をもっていただけるか心配な面はございましたが、意外にも質問が多く、「どうしたら緩和理学療法を受けられるのか」や、「どこの大学でも教えているのか」など興味をもって頂けたようでした。アンケートの結果も良く、緩和理学療法についての関心が大いに関心されました。

広く自由な視野で周りを見るタイプの高齢者は周りから尊敬され、好かれる性格ではないでしょうか。逆に、自分を中心に見るタイプの高齢者は、周囲の人達の態度などによる「不安」をかかえていることが多く、それが愚痴や頑固などの欲求不満につながっていることが多いと考えられます。その不安緩和に向けて、周囲が働きかけることも重要になります。

老年期において、好かれる(尊敬される)性格を保つには、老年期ならではの知識や経験で培われた能力を活かし、活動や社会参加を続けるなど、広く周りを見る機会を持つことが大切になります。登美ヶ丘カレッジに参加いただいたみなさん、これからもお友達も誘って社会参加を続けて頂きたいと思っております。



奈良学園セミナーハウス 志賀直哉旧居のご紹介

「奈良学園セミナーハウス志賀直哉旧居」を紹介いたします。
学校法人奈良学園セミナーハウス/志賀直哉旧居
館長 大原 荘司



春日大社に隣接する高畑の志賀直哉旧居は、志賀直哉さんが芸術性と居住性を深く考えて設計した近代日本の遺産であります。家族と共に9年間居住し、幾多の文人墨客が寄り集う高畑サロンを形成した場所であるとともに、末の二人の娘さんがこの旧居で生まれて育った安穏な家庭生活の場でもありました。戦後、進駐軍の5年間の接収の後、約20年間厚生省の保養施設として使われ、老朽化のため解体の方針となるところを、保存運動を背景に奈良学園初代理事長伊瀬敏郎先生が昭和53年に厚生省より譲り受け、保存管理公開することを決意されて今日にいたっております。この間、奈良学園では少なからぬ経費を投じて復元工事を重ね、昭和4年完成当時の佇まいをほぼ再現することに成功し、平成28年には、奈良県の指定有形文化財に指定されています。県下には近代の遺産が少ないということもあり、旧居を学校法人奈良学園が管理していることについては、「安心でありがたいです」という評価の声が入館者からたびたび聞かれます。年間一万数千人の内外からの入館者が訪れています。

短編「城の崎にて」が多くの国語の教科書にとりあげられていることもあって、志賀直哉さんの名前や簡潔な文体を誰もが知っていて、旧居の佇まいが直哉さんの文体そのものだというような感想を聞かされると、却ってこちらが驚嘆するほどです。和洋を見事に融合させた創造的空間や簡素な門構えには、一見にげないものごとに見出した志賀直哉さんの真骨頂が現われています。



静寂の空間を多くの地域の方々に活用していただけるように、お茶会や句会、読書会などに部屋をお貸しすることも行っています。ほぼ毎月、公開文化講座を開催し、学園内の園校の先生方にもご協力を頂いております。また今回、新たにセミナー室の整備をすすめ学園内の企画、研究会の会合にも大いに利用して頂けることを期待しております。

地域の皆様へのご挨拶



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科長
根岸 章

我々「奈良学園大学人間教育学部」は、大学創設の地三郷町から、本年3月末に登美ヶ丘の地に移転してまいりました。本学ではこれまで学部毎にキャンパスが分かれ、ともすれば「別の大学」のような雰囲気もありましたが、4月から両学部で接する機会も増えお互いの交流も始まり、大学としての一体感が出てきました。

このような一体感を持って、これまでの地域との交流をより発展させ、また、新たな交流を作っていきたいと考えております。手始めに登美ヶ丘キャンパス内の幼小中高との間で、ボランティア活動への協力などを行ってまいります。

人間教育学部が入っている3号館1階に新設された図書館を地域の方々に開放し、図書の貸し出し等を行っていく予定です。ぜひ図書館にお立ち寄りいただき、本学部の施設・設備や講義風景等をご覧になってください。他とは違う学びの場が広がっていると自負しております。

地域の皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

山田 明広 先生



私は、中国宗教、中でも中国固有の宗教である道教を専門としており、現在は特に現代の台湾の道教儀礼について文献読解と現地調査を組み合わせた方法により研究しています。

また、道教儀礼とは不可分の関係にある廟会や喪葬習俗を中心に台湾の民間信仰や民間習俗についても研究しています。

本学では、上記研究に必要な不可欠な中国古典語(漢文)の読解能力を生かし、主に漢文学の授業を担当するとともに、台湾での留学・調査経験を生かし、国際交流関連業務にも携わっています。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

山本 真樹子 先生



私は、総合病院で助産師として勤務し、また地域での母子保健活動を行ってきました。私の助産実践や研究の原点は、助産学実習での一人の産婦さんとの出会いです。学生の時に体験した、「傍に居て一緒にその出産を体験する中で紡がれる関係性が思いも掛けない女性の力を引き出す」ということをベースに助産実践を行ってきました。そして、女性がどのような思いを抱きながら出産をされているのかを聴き、出産時に立ち会う助産師のありようを探究しています。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

福原 啓太 先生



私は精神科領域が専門の作業療法士であると同時に公認心理師でもあります。作業療法の領域は「身体」「老年期」「発達」「精神・心理」と大きく4つに分けることができ、また、作業療法士は精神心理に関する医療領域において、唯一のリハビリテーション職となります。

様々な困難と直面する患者様に対しリハビリテーション支援をするには、様々な視点と工夫が必要です。その人それぞれの回復の仕方に合わせた支援を模索することが私たち作業療法士のやりがいになるということを授業で学生に伝えています。

また、私は「感情表出に関する研究」や「自信の持ち方に関する研究」、「持続可能な障害者雇用に関する研究」を現在行っています。

卒業生からのメッセージ



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科
4期生
宮武 ゆめの さん

私は大阪府の保健師として、地域の方々の生活をサポートしています。

日々の支援からの学び、先輩保健師から得られる学びが多くあります。先輩方のこれまでの知識や経験を基にした声かけや対応で、ホッとした表情や笑顔になる地域の方々をみると、私もこんな保健師になりたいと強く思う、憧れの先輩ばかりです。そんな先輩方に支えられ、楽しく業務に励んでいます。

また、職場の先輩だけでなく、実習や国家試験を共に乗り越えてきた友達は今でも私の心の支えとなっており、看護師や助産師、保健師と進路は別々でしたが現在も連絡を取り合い、励まし合っています。

様々な人に支えられながら、保健師の面白さや学びを探求していきたいと思っています。

在学生からのメッセージ



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
小学校専修 3回生
田中 佐和子 さん

私の目標は小学校教員になることです。特別な支援を必要とする児童が在籍する現状を知り、副免許として特別支援学校教諭の取得も目指しています。

課外では、幼小接続サークルやオープンキャンパススタッフとして活動しています。また、海外の大学とSDGsをテーマとしたオンライン交流、天平祭の地域ボランティアや学生支援ボランティア、「ラジコ」に出演など、様々なことに積極的に参加しています。

現在は、大阪府との共同研究として、「インターネット上の人権侵害の解消のための『低学年の絵本教材』の制作」に取り組んでいます。

今後も、奈良学園大学でこぞできる様々なことに挑戦し、貴重な体験を通じた学びを獲得しながら目標に向かって日々努力していきたいと思っています。

地域を素材にした学習を考える ～長弓寺本堂を訪ねて～

社会科教育の澁谷(しぶたに)ゼミでは「地域素材をテーマにした探究学習」や「地域の災害弱者に視点をあてた防災学習」等の研究を進めています。ゼミでは地域調査(ゼミ内通称「しぶたび(旅)」)も行っており、今回は、生駒市の国宝「長弓寺本堂」を紹介します(ちょうど紫陽花が見ごろでした)。

生駒市上町にある長弓寺、聖武天皇に命じられた行基が開基したものだと伝えられています。その本堂は鎌倉時代のもので、生駒市唯一の国宝の建築物に指定され、今日まで残っています。本堂の屋根は檜皮葺きの軒反りになっていて、鎌倉時代の技術の高さ、美しさに驚き、その迫力に圧倒されました。

本堂の中も案内してもらいました。ご本尊は重要文化財に指定されている「十一面観音立像」です。本堂内の灯りは電灯ではなくすべてろうそくで、ろうそくの灯りにほのかに照らされた観音立像を見ていると、鎌倉時代当時の風景を大切に守ってきたということが伝わってきました。

今後も「しぶたび」を続け、教材となる地域素材をたくさん知りたいと思っています。

文：末綱匠吾・山本大成(人間教育学部3年生) 文責：澁谷友和

